

2021年1月28日

2020年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

助産師は無痛分娩をする女性を
どのように支援しているか

How Midwives Care for
Women with Epidural Anesthesia

19MW008
間宮 万貴

要旨

[目的]

無痛分娩をする女性への支援を、助産師の語りを通して明らかにすること。具体的には、助産師の実践的な支援の方法、助産師が支援する上で抱える課題や葛藤、大切にしている信念や支援のゴールは何かを記述すること。

[方法]

質的記述的研究デザインを用いた。研究対象は、助産師としての臨床経験5年以上、無痛分娩の支援の経験2年以上とした。研究協力の同意を得られた助産師には、無痛分娩をする女性に対し、①どのような支援をしているか、②支援する際に大切にしていること、③どんな時に支援の手応えを感じているか、④支援がどう変化してきたのか(そのきっかけ)、⑤支援する上での課題について、約60分間の半構造化面接を行った。得られたデータの逐語録を作成し、内容を分析し、カテゴリー化した。尚、本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認(承認番号：20-A039)を受けて行った。

[結果]

研究対象者は、それぞれ異なる施設に勤務する助産師3名だった。助産師としての経験年数は8年から16年、無痛分娩の経験年数は3年から12年であった。分析の結果、助産師の大切にしている信念・支援のゴールには、【女性中心のケアで信頼関係を築くこと】【女性がお産の満足感・達成感・納得感を得て、育児へ向かうこと】があった。助産師の実践的な支援には、【妊婦の心身の準備をする支援】【言葉で知覚を補う支援】【進行予測をする支援】【産婦に寄り添う支援】【育児への移行を目指す支援】【実践を改善するための努力】があった。実践的な支援の中で、助産師は【女性が持つイメージとのギャップ】【「自分が産む」実感のしづらさ】【異常のケアのしづらさ】【育児への移行の難しさ】【助産観の揺らぎ】という課題・葛藤を抱えていることが明らかになった。

[結論]

助産師は、無痛分娩をする女性を支援する時、大切にしている信念である【女性中心のケアで信頼関係を築くこと】【女性がお産の満足感・達成感・納得感を得て、育児へ向かうこと】を目指しており、women-centered careが支援のベースにあった。支援の中で、助産師は課題・葛藤を抱えながらも、【実践を改善するための努力】をし、日々の支援を工夫していた。